

健

康



伊勢孝之
循環器内科講師

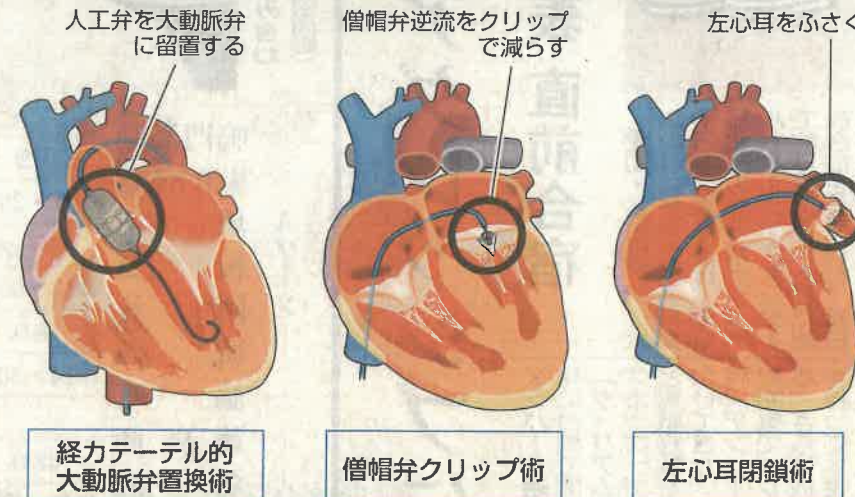
徳島大学病院では、以前は胸を切開していた心臓手術が、血管から挿入するカテーテルを使って行うことができるようになっていきます。傷が小さいため患者さんの体への負担が少なく、がんやさまざまな合併症を抱えてリスクが高い人や超高齢者にも実施できるようになり、早期の社会復帰につながっています。

当院で行っているのは、経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）、僧帽弁クリップ術、左心耳閉鎖術など最新の治療法です。

TAVIは心臓弁膜症の一つの大動脈弁狭窄症

傷小さく体の負担軽減

カテーテルによる最新の心臓手術



に対する治療法です。従来は心停止させ、人工心肺を用いて傷んだ大動脈弁を人工弁に置き換えていましたが、カテーテルの先端の風船に巻き付けた人工弁を使って心停止させずに置換します。

僧帽弁クリップ術も心臓弁膜症の一種の僧帽弁逆流症に対する治療です。専用のクリップを用い、左心房と左心室の間にある僧帽弁の前と後ろをつなぎ合わせることで

血液の逆流を少なくします。これらの弁膜症は治療せずに放置すると心不全を起して命に関わりますが、カテーテルを用いることで、重症患者でもリスクを抑えて治療できます。

左心耳閉鎖術は心房細動の患者さんに対し、左心房から飛び出している部分の左心耳を閉鎖する方法です。左心耳は血栓ができやすいため、閉鎖

させることで血栓が脳に飛んで脳梗塞を起こすリスクを低減します。血液をさらさらにする抗凝固薬の使用も中止できます。

三つとも、足の付け根の血管からカテーテルを挿入します。傷が数ミリと非常に小さく、術後の回復も早いいため入院期間も短くなります。

当院は循環器内科と心臓血管外科、麻酔科、放射線部、リハビリテーション部などの医師や看護師、臨床工学技士で「ハートチーム」を構成。各分野の専門知識を生かし手術の計画作りから術中の連携、術後のケアまで一貫して取り組んでいます。手術はカテーテルによる血管内治療と外科手術を同時にできるハイブリッド手術室で行います。

特にTAVIは2017年から実施しており、経験も豊富です。実績が高く評価され、23年には経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会から専門施設の認定を受けました。お悩みの方は、相談していただければ適切な治療法を提案します。

カテーテルで心臓手術